

銅賞

本当の「個性」

横須賀市立大津中学校二年

角井彩桜

「あなたって、個性的だね。」「ずいぶんと個性的な絵だね。」など、個性という言葉をよく聞くことが多い。辞書で調べると、個人や個体の持つ、それ特有の性質・特徴。と出てくる。では、周りが思っている個性とは、一体何だろう。

私は、小学生の時に、女子のあるグループと一緒に学校生活を送っていた。その女子というのは、クラスの中でも結構権力を持っていて、その女子がやっている事を、みんなもマネしてやる。というような感じだった。その時に、私は、「人のマネをしながら生活して、何が楽しいんだろう。」と思いながらも、周りに流されていた。ある日、運動会の練習で応援練習をしていた時だ。私は、運動会などの大きな行事は全力で楽しむ人だったので大声を出して、練習をしていた。しかし、他の女子は、「えーやだー、やりたくない。」と、グループで練習をサボっていた。私は不思議に思ったが、気にせずに練習をしていた。すると、女子の一部が、私を変な目で見ながら、「なんであんなに声出してんの?」「無駄にはりきってるよねー。」

と言ってきたので、「なんでみんな声出さないの？」と聞いたら、「だって声出すとか、ダサイもん。一人だけ声出すとかすごいよね。」と批判しながら私に言ってきた。私も、恥ずかしくなって、一緒に練習をサボってしまった。

この出来事は、今思うと、みんなと一緒に練習をサボった。という自分の行動は、とても、してはいけない事だと思う。自分だけ違うことをしても、行事を全力で取り組んでも、新しい案を出しても、騒ぎまくっても、良いと思う。個性的な人というものは、批判してはいけない。その人には、その人にしかない魅力がある。だから、その魅力は絶対につぶしてはいけない。私は、偏見の目で見られ、とても傷つき、悩んでいたときに、個性というものはなんなのか。と疑問に思い、ネットでたくさん調べた。そして、見つけたものが「個性って何？」「本当の自分」を追い求め悩みすぎる若者たち」という記事だ。その記事というのは、自分の性格や個性について悩む若い人が多くいる。という内容で、まさに今の自分だ。と思った。「大事なものは演じて造った個性を剥ぎとった、本当の自分とは何かを考えることです。個性に固執して不幸になるなんて馬鹿げたことです。自身の幸せを第一に考え、それに向かって生きていく。そうした結果あらわれるのが個性です。個性は造るものではなく、

造られるものです。これは、記事のなかで、一番心打たれた文章だ。この文章を読んで、私は、「こんな事で悩んではいけない。」と前向きになれた。「個性は造るものではなく、造られるものです。」これは、人に流されながら、周りの目を気にして生きるという、演じて造る個性より、自分らしく、楽しく、行事に全力で取り組み、まわりに流されず、自分の意志で行動ができるという、自分の中で自然に造られた個性を出すことのほうが、よっぽど良いし、こっちの方がつかれない。ということなのかと思った。この記事を読んでから、私は自分らしく生きることにした。何を言われても、自分の個性を批判されても、何も動じず、自分が楽しめるようなことをしてきた。すると、私を批判してくる人は減り、周りも自分の出した案を生かしてくれたりと、環境が変わった。

中学生になってからも、自分が楽しめるような事をたくさんして、中学の体育祭「大津祭」でも応援団をやって、全力で大津祭に取り組んだ。中学生になってから、行事に全力で取り組む人が増え、自分では出せないような案も出てきて、「この人の発想力はすごいな。」とお互いの個性を尊重することもできるようになった。だが、それとは逆に、個性を尊重できず、人を批判することも増えている。私は、そんな人達をなくしていきたい。個性的という言葉は、人を批

判するために使う言葉じゃない。個性は、その人の素晴らしさや魅力のことである。造るものではなく、造られるもの。その個性は、人によって異なる。互いに尊重することで、どんどん色々なことが発展していく。今の日本では、今の社会では、個性を尊重することができているのだろうか。